年間第 11 主日 (2013/6/16　ルカ 7 章 36-50 節)

7:36 （そのとき）あるファリサイ派の人が、一緒に食事をしてほしいと願ったので、イエスはその家に入って食事の席に着かれた。
7:37 この町に一人の罪深い女がいた。イエスがファリサイ派の人の家に入って食事の席に着いておられるのを知り、香油の入った石膏の壺を持って来て、
7:38 後ろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらその足を涙でぬらし始め、自分の髪の毛でぬぐい、イエスの足に接吻して香油を塗った。
7:39 イエスを招待したファリサイ派の人はこれを見て、「この人がもし預言者なら、自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに」と思った。
7:40 そこで、イエスがその人に向かって、「シモン、あなたに言いたいことがある」と言われると、シモンは、「先生、おっしゃってください」と言った。
7:41 イエスはお話しになった。「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五百デナリオン、もう一人は五十デナリオンである。
7:42 二人には返す金がなかったので、金貸しは両方の借金を帳消しにしてやった。二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか。」
7:43 シモンは、「帳消しにしてもらった額の多い方だと思い

ます」と答えた。イエスは、「そのとおりだ」と言われた。
7:44 そして、女の方を振り向いて、シモンに言われた。「この人を見ないか。わたしがあなたの家に入ったとき、あなたは足を洗う水もくれなかったが、この人は涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれた。
7:45 あなたはわたしに接吻の挨拶もしなかったが、この人はわたしが入って来てから、わたしの足に接吻してやまなかった。
7:46 あなたは頭にオリーブ油を塗ってくれなかったが、この人は足に香油を塗ってくれた。
7:47 だから、言っておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさで分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。」
7:48 そして、イエスは女に、「あなたの罪は赦された」と言われた。
7:49 同席の人たちは、「罪まで赦すこの人は、いったい何者だろう」と考え始めた。
7:50 イエスは女に、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われた。

＜イエスの宣教のスタイル＞
弟子たちといっしょに旅回り。誰からの招待もうけ、とくにご飯の誘いはことわらない。
ファリサイ派とイエス

友好的、イエスは無駄な争いはしない。イエスの活動はユダヤ教の刷新活動であり、ファリサイ派を説得することも活動の目的のひとつであっただろう。

＜きょうの福音＞

（36 節）イエスがファリサイ派の人（シモン）の宴会に招待された。

イエスの基本的なスタイル「招待されたら出かける、だされたものは食べる」これは簡単そうでなかなかできない。いやな人から招かれたら断りたくなるし、嫌いなものは食べ残してしまうのがわれわれ凡人。

（37 節）そこにまねかれざる女が侵入した。

（ただの女ではなくて）罪深いとレッテルを貼られている女。ここでシモンは宴席のホスト役として女に対してなんらかのアクションがあってもいいのだが、沈黙の構えをとっている、あるいは気づかなかったのか。

（38 節）女はイエスの足を涙で濡らし髪でふきキスして香油をかけた。

これは尋常なことではない。でもイエスは女のやりたいようにやらせている。

＜フランシスコ会訳聖書の注記引用＞

当時の習慣として、食事の時ははきものを脱ぎ、体を横たえ、足をのばしていた。それで、この女はイエズスのうしろに回って足を洗い、せっぷんし、香油を塗った。これによって、イエズスに

対する深い愛と尊敬を表した。（足を涙で洗い髪の毛で拭いた事は省略している）

（39 節）シモンはイエスの預言者としての資質に疑問をもった。

このありさまをみて、普通ならシモンは宴席のホストとして、女をつまみだすとか穏便に退席をうながすとかすればいいでしょう。でもシモンはイエスの様子をうかがっています。

（40-43 節）イエスは金貸しのたとえで反駁し、シモンから言質をとりだした。

イエスは千里眼でシモンの考えを見抜き、たとえを話す。金貸しが借金の帳消しをする、たくさん帳消しにされた者と、ちょっとだけ帳消しにされた者とを比べると、どっちが金貸しを愛するか？というたとえ。シモンは千里眼で正体が見抜かれていることに気づいてか気づかなくてか、正直に答えてイエスに言質を与えてしまう。

（44-46 節）シモンの言質をとったイエスは、お前はこうだが、この人はこうしたとシモンを責める。

新聖書注解によるとこのイエスの論法はソクラテスの産婆術のやり方。

シモン：この女は罪深い。（ここでイエスは女が赦されたことを知っている）

イエス：金貸しのたとえ

イエス：どっちが金貸しを愛するか？

シモン：借金の多いほう。

イエス：罪深い女のもてなしと、シモンのもてなしの比較

イエスの言い分は、もてなしの点から見て、女のほうが愛に満ちていて、シモンは愛が足りないという結論になる。（たとえの話ではたくさん借金があるほうが少しの借金よりも金貸しに対する愛が大きい）

（47 節）罪の赦しを宣言

このはなしを福音として読むためには。
このような前提を設定します。
＜前提＞女はすでにどこかでイエスの話を聞き、福音として受け取った。その時点で悔い改めて女の罪は赦されていた女はイエスが宴会に招待されたことを聞き、香油をもって感謝（愛）をしようを出かけていった。
<女の行為>
（当時、足を洗うことは深い尊敬をあらわす行為だった）
水のかわりに涙、タオルの代わりに髪は度を過ぎた行為だが、イエスは女の愛の行為だとさとり、女の好きなようにさせていた（受容した）
＜シモンに対して＞
シモンには愛が足りないとおもったイエスはたとえを通してシモンにも福音をといた。
「赦されることの少ないものは、愛することも少ない」
福音はこのようななぞなぞみたいに語られることが多い。
（女には、ほめた後、直接に罪の赦しをあたえた）

＜フランシスコ会訳聖書の注記＞

47 節：本節は一般に「この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされている」とか、「この人の罪、その多くの罪はゆるされた、多く愛したのだから」と訳されている。これによると、罪の女は愛を示したゆえにゆるされたことになる。しかし、本訳のように（「ことは」と「のは」の違いを言っている）ゆるしが愛の原因であるとするほうが、たとえ話とその結論（47 節後半）が一致する。すなわち、罪の女は、イエズスに愛を示す以前に、教えを聞き、罪を懺悔し、罪のゆるしを受けていた。これが愛と感謝の厚意となって現れた、とするほうが、話全体からより適切な解釈といえる。

「聖書と典礼」の下段の注記にも書いてあるようにルカの原文では愛の行為が赦しの原因として書いてあります。罪の赦しはお金や愛で買えるものではない、ルカではイエスは多く愛すると赦されるといったようになっているけれど、それは間違い。行いによるは赦しはない、信仰によって赦しは与えられる。

「神の無条件の赦し」これは福音的解釈の大原則です。

以前は、愛が足りないと救いはない、赦しはないと解釈していましたが、それだと愛が赦しの条件になってしまう、それはいかんという反省から、解釈が変更されつつある箇所です。

ようは、女は「行為と香油」で赦しを得たのではない。献金や奉仕をたくさんするから赦されるのではない、赦しはただ神に

憐れみを乞う、神の赦しは神を信頼し頼ることで得ることができる、という解釈です。でもこういうと都合が悪い（献金が集まらない、奉仕者がいなくなる）と考える教団や牧師がまだたくさんいることも事実です。

今日のポイントとなる箇所が絞り込めます。
「赦されることの少ないものは、愛することも少ない」
赦しの多い少ない、罪の多い少ない、愛の多い少ない、「多い少ない」を「大きい小さい」に置き換えてみたり「長い短い」など自分でいろいろ考えてみてください。
これはイエスがシモンに当てこすりのように語ったみことばですが、わたしたちに関係ないことではありません。

イエスがこのように語ったということは、このようにしか語って伝えることはできないからです。「反語表現」つまり、あえて本当に表したいこととは反対のことを述べています。ややこしいですが、どうぞ心にとめて、自分のものとするために味わい考えてください。